

『キリスト教神学』 補講  
教会論：礼拝論：  
10. フロンティア派の礼拝

一宮基督教研究所

安黒務

J.F.ホワイト著

『プロテスタント教会の礼拝ーその伝統と展開』

1. プロテスタント礼拝の研究
2. 中世後期の礼拝とローマ・カトリックの礼拝
3. ルター派の礼拝
4. 改革派の礼拝
5. 再洗礼派の礼拝
6. アングリカンの礼拝
7. 分離派とピューリタンの礼拝
8. クェーカーの礼拝
9. メソヂィストの礼拝
10. フロンティア派の礼拝
11. ペンテコステ派の礼拝
12. プロテスタント礼拝の将来

# 10. フロンティア派の礼拝

1. 序
2. フロンティア派の伝統の諸源泉
3. フロンティア派の伝統の特徴
4. モデルとしてのフロンティア派の伝統
5. 今日のフロンティア派の伝統

# 10-1.序

1. 起源にちなんで名前をつける→「フロンティア派の伝統」
2. フロンティア派の教会ー「教会に属していない人々のための礼拝形式」
3. 「洗礼を受けた後の礼拝全体のシステム」→「洗礼にまで導くような礼拝全体のシステム」
4. アメリカのフロンティアにおいて特徴を獲得した礼拝実践
5. 分離派・ピューリタンの伝統「聖書主義・各個教会の自律主義」→フロンティア派「実用主義・野外集会の実践」

# 10-2a. フロンティア派の伝統の諸源泉

1. サクラメンタル・シーズンー主の晩餐のための準備期間
2. 大規模な野外キャンプ・ミーティングー伝道と礼拝の両方を含む形式→回心者に対する洗礼と聖餐
3. 回心者を生み出す特別な工夫ー覚えやすい音楽・コーラス
4. 19世紀の最初の30年間ークリスチャン・チャーチ、チャーチ・オブ・クライストー改革派的な実践から分岐した新しい聖書的復興主義「聖書の語るところで私たちは語り、聖書の沈黙するところで私たちも沈黙する」
5. 新約時代ー日曜ごとに聖餐の集いー現代の教会の規範ークリスチャン・チャーチ、プリマス・ブレザレン
6. 礼拝の司式者は信徒ー礼拝における平等ー最も急進的な形式の聖餐
7. 信仰を前提とした洗礼による入会ー浸礼方式を規範とするバプテストの立場へ
8. 礼拝に関する聖書的規範の合意困難ー楽器を使用しない礼拝、「ひとつの杯」の主張

# 10-2b. フロンティア派の伝統の諸源泉

1. フロンティア派の礼拝パターン推進の第一人者—チャールズ・G・フィニー(長老派教会で按手)
2. 「信仰のリバイバルについての講義」とその実践
3. 同時代の礼拝に関する聖書主義→「神は礼拝において用いられる特定の基準を定めてはおられない」→唯一の命令「あなたの最善の力を尽くし、神からの知恵を求め、神があなたに与えられた賜物を用いて、それを行いなさい」
4. 既存の礼拝の諸形式の概観→すべて時間の中で変化→規範とするに足るものなし→牧師は「歴史的習慣に拘束される必要なし」
5. 本質的な基準＝实用主義「それは役に立つか。もし役に立つのならそれを残そう。しかし、そうでなければ捨ててしまえ」—純粹な实用主義に基づいた礼拝改革を提示
6. 自由教会が「重要な前提」としていた事柄からの「決定的な分離」—聖書は礼拝に関する「特定の形式」を規定しておらず、ただ「すべてを適切に、秩序正しく行いなさい」Iコリ14:40
7. 「聖書主義」を「实用主義」が凌駕—「聖書に自由に従う」→「役に立つことを押し進める自由」
8. 礼拝の「試金石」—教会に属さない多くの人々の中から改宗者を生み出す上でそれが効果的であるかどうか
9. リバイバリズムの三つの礼拝順序—①賛美の部分、②説教の部分、③新たな回心者を収穫する部分

## 10-3. フロンティア派の伝統の特徴

1. プロテスタントの大部分の礼拝伝統ーフロンティア派で効果を発揮した多くのテクニックや実用主義的な方法の採用
2. フロンティア派のキリスト教ー「一種のブラックホール」ーそれ以前の時代のさまざまな伝統における際立った特徴の多くを飲み込んでしまう傾向